

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2026 年 10 月 5 日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部
留学(渡航)した時の学年	2 年生
帰国年月日	2026 年 10 月 4 日
明治大学卒業予定年月	2028 年 3 月
留学先大学について	
留学先国	ガーナ共和国
留学先大学	ガーナ大学(日本語名) University of Ghana(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/ 英語
留学期間	2026 年 1 月～2026 年 9 月
留学先大学で在籍した学年	2 年生
留学先の所属学部等	☐ 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: ☒ 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している ☐ その他:
形態	☒ 国立 ☐ 公立 ☐ 私立 ☐ その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 1 月～4 月 2 学期: 6 月～9 月 3 学期: 4 学期:
学生数	約 6 万人
創立年	1961 年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (セディ) (1 現地通貨 = 15 円)	B 日本円	備考
授業料		円	
宿舍費	2100	30 万円	
食費	16000	25 万円	一か月あたり 3 万円以下
図書費		円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費	600	3 万円	大容量データパックを 2 回購入して十分
現地交通費		円	(☒ 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
旅費(留学中)	10000	15 万円	
被服費	2000	3 万円	生地からテイラーに作ってもらいと高い
医療費	1500	2 万円	マラリア診療費、処方箋代
保険費		円	形態:
渡航旅費		35 万円	
ビザ申請費		3 万円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	14100 (=19 万円)	60 万円	
総計(A+B) ※円		60 万円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

渡航関連

渡航経路

往路 出発地：成田 目的地：アクラ 経由地：カタール

復路 出発地：アクラ 目的地：羽田 経由地：ロンドン

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社：JAL

料金：35 万

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社： 料金：

復路 航空会社： 料金： ∴合計：

航空券購入方法

☐ 旅行代理店(店名：)

☒ インターネット(サイト名： JAL 公式サイト)

☐ その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例：アパート、大学の宿舎等)

☒ 学生寮(寮の名前： International Student Hostel) ☐ アパート ☐ ホームステイ

2) 部屋の形態

☒ 個室 ☐ 相部屋(同居人数)

3) 共有部分

☒ バス ☒ トイレ ☒ キッチン(☒ 自炊可 ☐ 自炊不可)

4) 住居を探した方法：

入学手続きの時に入寮の手続きも一緒にした

5) 感想：(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

はじめは不便に感じるが、だんだん慣れてくる。湯沸かし器は持参すると便利。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

☐ なし

☒ あり (治療を受けた場所: University Hospital Legon)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☐ なし

☒ あり (問題の内容や相談した人等: 現地の友人、知り合いの日本人)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

現地の友人から危険な場所を教えてもらい、行かないようにした。また、夜に一人で行動することは避けたり、危なそうな人には近づかないようにした。スマートフォンのひったくりにあったが、友人に相談して新しいスマホを購入した。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地で利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使えない時はカフェに行った。)

停電やインターネット切断は頻繁に起こった。寮や教室などは通信状況がかなり悪かった。ただ、少しいいカフェに行けばインターネットを使うことはできた。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

ワイズカードで大学の敷地内にある銀行の ATM を使ってお金を卸していた。また、カードも使用できたのでクレカを使って買い物をするときもあった。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

湯沸かし器、ヘアアイロン

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
27 単位	☒ 15 単位 ☐ 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
☐ 出発前 ☒ 出発後 ☐ 派遣先大学の事務室 ☒ オンライン ☐ メール ☐ その他(紙でも提出した) ☒ 履修の制限があった: 1 学期最大 21 単位まで	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Theories of Underdevelopment and Development	開発と未開発論
科目設置学部・研究科	Political science
履修期間	2026 年 1 月～4 月
単位数	3
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	対面(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 110 分が 1 回
担当教授	Dr. Joshua Zaato
授業内容	アフリカの発展が進まない原因や複数の主流の開発論について主張内容とその理論の問題点について学んだ
試験・課題等	中間テスト、期末テストどちらも筆記テスト
感想を自由記入	開発論の基本的な概念について学ぶことができた。また、開発論は、理想論的な部分があるので、ガーナという開発される側からみた開発論の問題点を学ぶことができて有意義だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
The Black Diaspora		ディアスポラの人々
科目設置学部・研究科	History	
履修期間	2026 年 1 月～4 月	
単位数	3	
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 110 分が 1 回	
担当教授	Dr. Amoah-Boampong	
授業内容	カリブ海を中心とする世界中のディアスポラがどのような困難に直面し、乗り換え、彼らがアフリカ人や世界にどのような影響を与えたのか。	
試験・課題等	グループプレゼンが 1 度だけあった。期末試験は筆記だった。	
感想を自由記入	ディアスポラという概念を初めて知り、アフリカの独立にはアフリカ人だけでなく、彼らの存在が大きいということを知って興味深いと思った。また、グループプレゼンはパワポを丁寧に作れば評価されたため、そこまで大変ではなかった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Traditional Dance		伝統ダンス
科目設置学部・研究科	Dance	
履修期間	2026 年 1 月～4 月	
単位数	3	
本学での単位認定状況	1 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	対面(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 110 分が 3 回	
担当教授		
授業内容	月、木 伝統ダンス 水 ポップダンス	
試験・課題等	ダンスを一通り覚えるごとに実技発表	
感想を自由記入	ガーナ人はよく踊るのでガーナのダンスの基本的な動きを叩き込まれたおかげでちょっとしたガーナの音楽が流れてきたら踊れるようになった。週に 3 回の授業に加えて、朝の練習や任意で夕方の練習があった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
History of Pan-Africanism		パンアフリカニズムの歴史
科目設置学部・研究科	History	
履修期間	2026 年 6 月～9 月	
単位数	3	
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 110 分が 1 回	
担当教授	Dr.Danladi Abah Justice	
授業内容	パンアフリカニズムがどのようにして生まれ、広まっていき、アフリカ諸国の独立運動へと発展していったのか。	
試験・課題等	中間テスト・期末テストはどちらも筆記だった。	
感想を自由記入	パンアフリカニズムがアフリカで生まれたのではなく、ディアスポラから生まれ、知識人たちによってアフリカに持ち込まれたという始まりだと知らなかったのが意外だった。独立前後の動きを知れてよかった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
African political thought		アフリカ政治思想
科目設置学部・研究科	Political science	
履修期間	2026 年 6 月～9 月	
単位数	3	
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 110 分が 1 回	
担当教授	Prof. Nene-Lomotey Kuditchar	
授業内容	アフリカの政治家たちが唱えた政治論について	
試験・課題等	中間・期末テストどちらも筆記	
感想を自由記入	アフリカの中では、独立後に社会主義的な思想を持った国と民主主義的な方向に向かった国があるという分類の仕方が面白かった。アフリカ独自の力だけで発展したいという理想と、欧米諸国の理論を使って発展すべきかという葛藤を知った。	

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

☒就職 ☐進学 ☒未定 ☐その他:

2) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。
内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。
就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

メーカー業界

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

留学中は全く就職活動はしていないが、ガーナで働く商社やメーカー、政府機関の方たちと話して自分がどのような働き方をしたいか考えた。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1 月 ～ 3 月	
	4 月 ～ 7 月	
	8 月 ～ 9 月	
	10 月 ～ 12 月	航空券購入(9 月出発予定の分)
留学開始年	1 月 ～ 3 月	
	4 月 ～ 7 月	航空券変更(1 月出発に変更)、ワクチン接種
	8 月 ～ 9 月	ビザ申請
	10 月 ～ 12 月	ビザ取得
留学/帰国年	1 月 ～ 3 月	留学開始
	4 月 ～ 7 月	
	8 月 ～ 9 月	
	10 月 ～ 12 月	留学終了

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

私がガーナ大学を留学先に選んだ理由は、開発について興味があり、現地の人々は開発や経済発展についてどのように考えていて、彼らの生活はどれほどダイレクトに影響を受けているのか、ということを目で確かめたいと思ったからです。実際、ガーナに留学したことで、自分が知っているのは世界のほんの一部で、世の中にはたくさんの生活に苦労している人がいることを目の当たりにすることができました。国の経済が豊かになっていくことだけを求めるのではなく、国民一人一人の生活水準が向上するような発展をしていく必要があると改めて現実感をもって感じることができました。また、明治大学にはなくてガーナ大学にしかない授業をたくさん取ることができた点もとても良かったです。ディアスポラやパンアフリカニズムという概念を知り、アフリカについてより多面的に知ることができました。

留学生活は、今まで自分がどれほど恵まれた環境に身を置いていたのか思い知らされましたが、すべてのことは慣れてしまえば何とかなるということも体得することができました。はじめはつらいと感じることや大変だなと思うこともあり、弱気になりますが、周りの人が助けてくれるので何とかなります。また、ガーナ大学がある首都のアクラには日本人が100人以上住んでいるため、時には日本人コミュニティを頼ることをお勧めします。